

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	0492600036		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス松島 ユニット名ちどり		
所在地	宮城県宮城郡松島町磯崎字長田80番222		
自己評価作成日	平成30年10月15日まで	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	平成30年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな松島湾に面した、閑静な住宅街の中に当事業所はあります。海からも至近距離に設置している事から、先の震災の教訓に毎月月末に防災・避難訓練を行う等、災害に対するスタッフの防災意識は高いものと考えています。スタッフは笑顔が魅力で、ユニット内はいつも笑いが絶えず、入居者様には明るい雰囲気毎日の生活を送って頂いています。外へ散歩に出掛けると、地域の方とお互い挨拶や世間話をする等、地域の皆様との関係性も良好です。敷地内では広い庭があり、畑を耕作し、季節の野菜を栽培したり、バーベキューや夏祭り等を行ったりと、入居者様にとって楽しみのある空間になる様、スタッフは日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは東日本大震災の後、平成23年7月に開所した。JR仙石線 高城町駅より徒歩15分、県道27号(奥松島パークライン)沿いの住宅地にあり、松島湾の海岸が300m先に見える。近隣からの入居者が多く、日常的な外出先も以前の生活圏内である。2年前から月1回開催している認知症カフェの「コスモスカフェ」には、近隣住民が参加している。カフェの企画に認知症に関する研修を取り入れ、「タクティールケア」や「ユマニチュード」の実習などで理解を深めている。第3水曜日午後2時の固定した開催は回を重ねる度に口コミで広がって、充実した認知症の学習と交流の場になっている。町の健康長寿課高齢者支援班からの参加もある。各ユニットには南向きにウッドデッキがあり活用されている。前庭には野菜作りを楽しむスペースがあり、旬を味わうことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHコスモス松島 ）「ユニット名 ちどり 」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を朝礼等で、毎回唱和し確認を行っています。その理念を踏まえ、地域貢献できる様、地域の清掃活動にも参加し、理念にもある地域福祉の向上をめざしています。	事業所理念とユニット理念がある。ユニットちどり「元気・敬愛・初心～地域と共に～」、ユニットかもめ「心温まるケアを目指す・・・」を常に意識して実践している。利用者と職員が元気になる事を基本にし、常に初心に立ち返り、利用者を尊敬した支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として地域の避難訓練、清掃活動、お祭りや松島町主体の敬老会等に参加し地域交流を図っている。また月に1度、地域住民を対象とした認知症カフェを開き、地域住民の方と交流しています。	月1回、認知症カフェ「コスモスカフェ」を開催し、2年目を迎え口込みでも広がり、地域住民の参加が定着している。毎回認知症に関する研修を取り入れて企画し、町の健康長寿課高齢者支援班の職員参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも、施設行事や運営推進会議に参加して頂き、認知症について理解して頂ける様、働き掛けてる。また毎月地域の方を対象に認知症カフェを開催し、認知症についての勉強会を行い、理解して頂ける様に活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の様子、活動報告、待機情報、事故報告等を行い参加者から率直な意見を頂き、サービスの質の向上に活かしている。また運営推進会議の中で避難訓練等も取り入れアドバイスを頂いています。	年6回奇数月に、行政区長・町内会長・社協職員・町の職員・家族の代表が参加し開催している。直近では避難訓練を同時に行い、参加者からの様々な意見が寄せられ、改善に向けて検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に欠かさずご参加頂き、事業所の実情や日頃の状況をお伝えし、ご意見ご指導を頂いている。又、地域ケア会議や町の基盤整備協議体の委員として毎月会議に参加、災害時の福祉受入れ施設としても協力関係を築いている。	町の職員が運営推進会議や認知症カフェに定期的に参加するなど、連携体制の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度から、身体拘束廃止委員会を作り、身体拘束を行わない取り組みを行っています。身体拘束に当たる行為は何なのか、一見すると介護の延長になる事があるので、内部研修なので、拘束になる行為を一つひとつ確認し日々のケアに活かせるようにしています。	身体拘束廃止委員会を中心に、身体拘束廃止の研修を行っている。日常的に身体拘束に当たるケアにならないか細かく確認しながら、職員同士で情報共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がる様な言葉遣い、ケア等を行わない様に職員は声を掛け合い、日々助け合いながらケアをしています。また、内部研修なので虐待マニュアルを確認し日々のケアの振り返りを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行い、制度を学ぶ機会を持ち理解を深めたりしている。制度を実際に実践出来る社会福祉士等の資格取得にも取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、一つ一つの項目を読み上げ、疑問点や不安な所が無いように、確認しながら全ての項目で納得頂ける様に説明しています。また、いつでも疑問な所があれば質問を受ける様にしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様からご要望やご意見があれば、運営推進会議やカンファレンス等で取り上げ、業務改善に繋げている。日々のご家族様との連携を大事にする為、面会時には些細な事でも様子をお伝えし、コミュニケーションを図っている。	面会時などに出された家族からの要望は、運営推進会議や定例会で議題にし、改善に向けて取り組んでいる。看取りの要望があり体制を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	当事業所は職員一人ひとりの意見を大事にしています。会議時やミーティング時だけではなく、管理者は常に現場に入っている為、その都度現場の意見を聴き、必要な事は代表者にも相談し運営に活かしています。	定例会やミーティングで出される職員の意見以外にも、日常的に出される意見を聞いている。それらの意見を事業運営などに活かすよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員個々の努力・頑張りを認め、やりがい、向上心が持てる環境づくりを行う為、皆が安心して働ける様に常に代表者に相談しています。代表者は管理者を含め従業員と個別に面談を行う等、把握からの整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれのスキルに応じた外部研修を紹介しています。皆が一度に受けられる体制ではありませんが、少ない回数でも研修に出しています。また、月一度の内部研修が個々のレベルアップに繋がっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や松島町他職種会議への参加や外部研修を通じて、相互関係を構築し地域福祉事業のサービスの質の向上を図っている。又、社内の研修で他の事業所と勉強会や情報交換を行なったりしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを始める段階は、サービスを利用する方、行う方も緊張します。本人の気持ちに配慮しながら、不安な事、要望を聴くようにしお互いが安心して信頼が得られる様に利用者と接する様に心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階、見学・申し込み時、契約時に不安な事、要望等を聴く様にし、更にサービスを導入する時にも、確認を含めて再度困りごとが無いかを聴いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査等により入居者様やご家族様からの意見や要望をお聞きし、必要な支援の検討を行なっている。入所までの待機期間中に必要なサービスについては必要時に情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活用しながら、ご自身で出来る事はして頂き、食器拭き・洗濯たたみ・洗濯干し等、生活の中での居場所、役割を持ちながら共に過ごし合える関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と本人が良好な関係を構築できる様に、面会時やお手紙等でホームでの暮らしを細かくお伝えする様にしています。ご家族様、来所の際には家族と本人がプライベートな時間が過ごせる様に配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事等に参加し、外部との交流を図れるようにし、孤立しない様に支援しています。また馴染みの方がいつでも面会に来れる様な雰囲気づくりを心掛けています。	利用者は地元出身者が多く、地域で開催している「わいわいカフェ“かこまち”」などの地域行事への参加など、地域住民との交流ができるよう支援している。馴染みの美容院に出かける利用者もいる。家族などが来訪しやすいよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、悪い部分を引き立てるのではなく、良い面を引き出す支援を行い、それぞれが助け合いながら生活出来る様に職員は関わっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所された方は定期的に訪問し、現状を把握する様にしています。亡くなられた方のご家族様とは、今までの関係が途切れない様に大きな行事がある時等はお誘いし関係性が切れない様にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を普段のコミュニケーションの中から拾い出せる様な関わり方を行っています。また会話が出来ない方などはご家族様と連携し思いを共有する様にしています。	日常生活の中での会話や行動から意向を把握し、心穏やかな生活ができるよう支援している。家族との連携により、生活歴などの情報を共有したり、利用者の「家に帰りたい」などの要望には、外出や外泊で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションのとれる方に対しては、日常会話の中から、今までの生活歴を把握する様にし、現在のサービスに至っている現状を理解する様にしています。コミュニケーションが十分にとれない方へはご家族様と連携し情報把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前・午後のバイタル測定や、毎日の会話、お手伝いや散歩等で変わりがないかを確認しています。1日どのような生活を送りたいか、外出をしたいか等の要望を聴くようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や本人様の要望を把握し、日頃関わっている職員から身体状況の変化や対応方法についての意見を求めケアプランに添って毎月モニタリング及びカンファレンスを行っている。プラン変更の必要がある時は、職員やご家族様と相談し、介護計画に反映している。	定期的カンファレンスを行い、利用者の状態の変化などについて職員から意見を聞いている。家族の要望をできるだけ介護計画に反映するよう取り組んでいる。家族からの要望で口腔ケアを介護計画に取り入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画された内容を実践できたかを個別の記録（今日の私）とサービス内容確認表に記入して現状把握に努め、情報を共有しながら介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれない様に、意識を外に向ける様にし、他の施設ではどのようなサービスを行っているのか、運営推進会議等でも意見を頂戴し柔軟な支援を行う様にしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が町内の方なので、日々の会話や生活の中で地域資源を活用している。ご家族様協力のもと、外出や外泊の機会を設けたり、町内の保育所や高校と交流を行っている。他にも地域のお祭りや敬老会へ参加する等地域での暮らしを楽しむ事ができる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が長年通い続けている所で入所後も引き続き変更する事なくお世話になっているので、ご家族様、本人も安心して生活しております。	定期的なかかりつけ医の通院は職員が送迎、同行し、その他、専門医などの通院は家族が付き添っている。往診医をかかりつけ医として健康管理を行っている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設において看護職は不在であるが、必要に応じて往診医や看護師と連絡を取り合い適切な医療が受けられる様努めている。受診の際には医師への申し送り事項や医師からの指示を書面に残し、職員間で情報を共有して共通の対応を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	症状が重度化する前に早い段階で主治医に相談し、診て頂いています。入院や細かい検査が必要な場合なども、総合病院の方を紹介して貰い適切なアドバイスを頂いています。入院の際はムンテラをご家族様と受けたり、面会に行く等、退院の為の情報把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で、ホームではどこまで対応出来るのかを説明しています。また節目ごとに、ご家族様と重度化した場合や終末期のあり方を話し合い、主治医からも同様のお話をご家族様に頂き、医療と連携を保ちながら取り組んでいます。	看取りの実績はないが、協力医療機関との連携など、看取りについて検討中である。看護師の採用も検討している。家族室があり看取りの場合には活用できる。	家族の要望もあり、職員も看取りについての必要性を考えていることから、看取り体制を整えることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や、避難訓練時に傷病者対応の訓練も行っています。また消防署の隊員による講習等で緊急時の対応も教わり、急変や事故時の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月災害における避難訓練を実施しており、避難方法や避難場所の確認・避難訓練を繰り返す事で全スタッフが迅速に対応出来る様に取り組んでいる。又、近隣住民の協力者の方には緊急連絡網に電話番号を記載させて頂き、災害時の応援を依頼している。	東日本大震災の津波の浸水地域でもあることから、定期的に津波の避難訓練を行っている。火災時の避難訓練は年2回行っている。直近では9月の運営推進会議時に合わせて行った。参加者からアドバイスがあり改善に向けて検討している。備蓄は3日分で、毎年入れ替えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声がけの仕方や対応方法について一人ひとりの人格を尊重するよう心がけている。排泄、入浴時は特にプライバシーを損ねないように、スタッフ間で話し合い利用者様が不快な思いをしない様に心がけている。	利用者を尊敬し支援している。入室時には確認するなど、特に注意を払っている。呼び名についても、本人の意向を確認している。毎月の「コスモス松島通信」の写真は確認してから掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でストレスを溜めこまない様に気配りしています。また中々自分の想いを話せない方に対しては、本人が何を考えているのか、表情や会話等から感じ取れる様に支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者様第一に考え、それぞれが暮らしやすい様に希望や要望を聴く様にしています。職員がその場で解決できない時は、ご家族様のお力もお借りし納得頂ける様に関わっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際の衣服の自己決定や化粧を行なう機会を設ける等、おしゃれができるように支援している。定期的に訪問理美容を依頼し、好みの髪型にカットしたり、パーマ、毛染めなどをされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの禁止食べ物苦手な食べ物を把握し、個々で食べやすい物を提供しています。準備では野菜を切って頂いたり、片づけは食器洗い・食器拭き等を手伝って頂いています。	管理栄養士が確認した献立により、食事が提供されている。各ユニットでは食事の準備や片づけなど利用者と職員が行っている。味付けについて、利用者の率直な意見が出され改善している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、入居者様一人ひとりの咀嚼や嚥下状態・その時の健康状態を把握した上で食事形態を選択し栄養バランスの取れた食事を提供している。水分の不足についてはゼリーの提供やジュース等嗜好物の提供をご家族様との話し合いのもとで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っています。自力で出来る方は自力で。介助が必要な方は口腔スポンジ等を使用し苦痛なく行える様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや能力をきちんと記録・情報共有し、毎日快適に過ごして頂ける様に支援しています。またオムツが合わない、パッドの大きさが合わない等の訴えがあれば、その都度本人合った物を発注し使用して頂いています。	トイレでの排泄を目指しており、利用者が混乱しないよう居室から近い同じ場所を使うよう誘導している。夜中に限り、持ち込みのポータブルトイレで対応している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	咀嚼や嚥下能力、その時の健康状態を把握した上で食事形態を選択し提供している。水分の不足についてはゼリーやジュースなど嗜好物をご家族様と話し合い提供している。又、散歩や体操など体を動かすことに努めている。必要時は医師に相談し、整腸剤・緩下剤を処方頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様一人ひとりの要望を聴いて、午前入浴か午後入浴かを決めています。また本人が入りたい時間も聴くようにし入浴を楽しんでもらえる様に心掛けています。	週2回午前や午後の希望を確認し、入浴している。気乗りしない場合は、日を改めたりシャワーなどで対応している。脱衣所の温度はヒートショックなどに配慮し、高めに設定している。希望があれば同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に横に寝かすのではなく、本人の意思を尊重して支援を行っています。特に夜間帯眠れない時等は強制させない様にしています。眠れない時は暖かい飲み物を提供したり眠くなるまでリビングで過ごして頂いたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの飲んでいる薬を把握し、間違えた場合は命に直結する可能性がある事も職員は理解しています。また薬の作用が強すぎて日中の活動状態が悪い時は主治医に相談し、その時に合った薬を提供して貰える様に働きかけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方の能力を基に食器拭き、洗濯物たたみ等役割を持ち、張り合いのある生活の支援を行なっている。又、庭の畑の野菜を収穫したり、天気の良い日は中庭で日光浴をする等、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉等季節に合わせたドライブや外食の機会を設けている。ご家族の協力もあり、月に何度か自宅へ外出・外泊されたり、ご家族様と外食される方もいる。体調と天気の良い日をみて、町内の馴染みの店や観光地を巡って楽しんで頂いている。	車いすでも利用しやすい回転ずしやパノラマラインの紅葉ドライブ、高城川の幡谷の桜並木が季節ごとの楽しみなコースになっている。日常的には松島湾の海岸が散歩コースになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金に於いては金銭トラブル回避の観点から施設側で一元管理をしているが、買い物等により使用を希望される際は、極力使用出来る様にしている。また職員と一緒に買い物に出掛けたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月ご家族様宛にお手紙を書いています。手紙の内容としては、日々の様子や毎月の行事の様子などを伝えています。また、体調に変化があった場合や事故などが起きた場合は速やかにご家族様に連絡し情報共有しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には花等四季に応じた張り紙を、浴室では菖蒲湯や柚子湯等、季節に応じたお湯を楽しんで頂く等、楽しみのある空間作りを行っている。また、共用空間（リビング・廊下）は一日に3回清掃を行っており、いつも清潔な空間で過ごして頂ける様にしている。	中央の玄関を挟んで左右対称の平屋造りで左の東側が「ちどり」ユニット・西側が「かもめ」ユニットである。リビングは南に位置し居室はリビングを囲み、外の景色が見られる配置である。キッチンを挟むように畳敷きのスペースがあり多目的に使われている。掃除が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室やリビングの他に小上がりを設置しており、様々な所で好きな様に過ごせるスペースを設置して活用して頂いている。気の合った利用者様同士で会話をしたり、食事後の食器洗いを行ったりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた物や愛着のある物・ご家族様の写真等を持ち込んで頂き、一人ひとりが心地よく過ごす事の出来る空間作りを行っている。	居室は開放感がある。クローゼットとベッドは備え付けであり、整理タンスなどの小物入れや椅子は各自の馴染みのものを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	運動機能的な面も含め、トイレは出来るだけその方が慣れている場所を使用して頂く等、環境の変化に戸惑う事の無い様に配慮しながら支援を行っている。またトイレには場所が分かり易い様、看板を掲げている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600036		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス松島 ユニット名 かもめ		
所在地	宮城県宮城郡松島町磯崎字長田80番222		
自己評価作成日	平成30年8月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	平成30年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな松島湾に面した、閑静な住宅街の中に当事業所はあります。海からも至近距離に設置している事から、先の震災の教訓に毎月月末に防災・避難訓練を行う等、災害に対するスタッフの防災意識は高いものと考えています。スタッフは笑顔が魅力で、ユニット内はいつも笑いが絶えず、入居者様には明るい雰囲気毎日の生活を送って頂いています。外へ散歩に出掛けると、地域の方とお互い挨拶や世間話をする等、地域の皆様との関係性も良好です。敷地内では広い庭があり、畑を耕作し、季節の野菜を栽培したり、バーベキューや夏祭り等を行ったりと、入居者様にとって楽しみのある空間になる様、スタッフは日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは東日本大震災の後、平成23年7月に開所した。JR仙石線 高城町駅より徒歩15分、県道27号(奥松島パークライン)沿いの住宅地にあり、松島湾の海岸が300m先に見える。近隣からの入居者が多く、日常的な外出先も以前の生活圏内である。2年前から月1回開催している認知症カフェの「コスモカフェ」には、近隣住民が参加している。カフェの企画に認知症に関する研修を取り入れ、「タクティールケア」や「ユマニチュード」の実習などで理解を深めている。第3水曜日午後2時の固定した開催は回を重ねる度に口コミで広がって、充実した認知症の学習と交流の場になっている。町健康長寿課高齢者支援班からの参加もある。各ユニットには南向きにウッドデッキがあり活用されている。前庭には野菜作りを楽しむスペースがあり、旬を味わうことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHコスモス松島 ）「 ユニット名 かもめ 」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼の場で事業所理念並びに各ユニットの介護理念を唱和している。ユニット理念についてはリビングに掲示し、常に立ち返りながら入居者様の支援を行っている。	事業所理念とユニット理念がある。ユニットちどり「元気・敬愛・初心～地域と共に～」、ユニットかもめ「心温まるケアを目指す・・・」を常に意識して実践している。利用者と職員が元気になる事を基本にし、常に初心に立ち返り、利用者を尊敬した支援をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃に職員が参加したり、「コスモスカフェ」を中心に施設での行事に地域の方にも気軽に参加して頂いたり、地域を散歩すると、地域に根付いた事業所作りが徐々に実を結んでいる。	月1回、認知症カフェ「コスモスカフェ」を開催し、2年目を迎え口込みでも広がり、地域住民の参加が定着している。毎回認知症に関する研修を取り入れて企画し、町の健康長寿課高齢者支援班の職員参加がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記に記した施設行事の地域の方の参加や、運営推進会議等への参加を通して、認知症のある入居者様に対しての支援についてご理解を頂ける様、実践している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で話し合われた内容やご意見はスタッフ間で共有し、その意見を柔軟に取り入れ、サービス向上に努めている。	年6回奇数月に、行政区長・町内会長・社協職員・町の職員・家族の代表が参加し開催している。直近では避難訓練を同時に行い、参加者からの様々な意見が寄せられ、改善に向けて検討中である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議等の参加や各種申請手続きを通じて、日々町の担当者と連携を取っている。	町の職員が運営推進会議や認知症カフェに定期的に参加するなど、連携体制の構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設マニュアルや、内部・外部研修に参加し身体拘束の弊害について勉強し、身体拘束を行わないケアを実践している。	身体拘束廃止委員会を中心に、身体拘束廃止の研修を行っている。日常的に身体拘束に当たるケアにならないか細かく確認しながら、職員同士で情報共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回行われる定例会議で虐待の関連法について読み合わせを行う等の勉強会を行うと共に、普段の支援の中で、スタッフ同士でお互いの支援方法を客観的に評価し合う事で防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に入居されていた入居者様が財産管理サポートセンターの支援事業を利用して、いた経緯があったことから、月に1度開催している定例会議等の内部研修や外部研修で学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の説明については書類の提示と併せ、内容の説明を口頭でも必ず行っており、十分な説明と理解を得た上で契約の締結に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様との日常的な会話や、面会時におけるご家族からのご意見や、隔月に行われる運営推進会議に参加された関係各所からのご意見を聞く機会を頂くと共に、玄関脇にご意見箱を設置し、投函された内容も運営に反映させている。	面会時などに出された家族からの要望は、運営推進会議や定例会で議題にし、改善に向けて取り組んでいる。看取りの要望があり体制を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回行われている定例会の中で意見交換や提案を聞き、話し合いを重ねて反映出来る様に努めている。	定例会やミーティングで出される職員の意見以外にも、日常的に出される意見を聞いている。それらの意見を事業運営などに活かすよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格支援制度や外部での研修の参加を支援しており、向上心を持って仕事に臨める事が出来る様支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後最低1カ月は「わかば研修」という形で管理者・ユニットリーダー・先輩スタッフの指導を受けている。又、各スタッフは均等に外部での各種研修会に参加する機会を得ており、学んできた事を内部研修という形で勉強会を開いて各スタッフのスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種外部研修や、地域の事業者会議等に積極的に参加する事で、自事業所だけでなく、地域の福祉事業の更なるサービス向上へ努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの段階からグループホームの役割について説明を行い、ご本人・ご家族からの聞き取りを可能な限り行っており、納得を得られた上で入居頂いている。入居後もコミュニケーションを取り、ご本人・ご家族からの要望を元にカンファレンス等の各種話し合いを通して適切な支援が出来る様に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査等にて、ご家族が抱えている不安や要望等を聞き取りし、入居された後もご家族との連携を常に持ち、逐一入居者様の状態報告を行うと共に、ご家族からの要望等を聞き取りながら適切な支援が出来る様、日々努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階から行っている調査や、2度に分けて行っている入居判定会議、入居前の段階で行っているバックグラウンドアセスメントを行う事で、ご本人とご家族が「今必要としている」サービスを判断し、支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフによる一方向の支援を行わず、各入居者様の残存能力を活かしながら、調理の補助や洗濯物干しやたたみ方を行って頂く等、お互い助け合いながら日々の生活を送って頂ける様支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、ご本人の日頃の様子を逐一お伝えしている。又外出や外泊・通院等に於いて可能な限りご家族の協力を頂いており、ご家族・ホーム側共に常に本人を支えていく体制作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人にとって生活を続けてきた松島町に住み続ける事で、長年本人と交流を持ってきた友人・知人等と今後も関係性が途切れる事の無い様、気軽に訪れて頂ける様、門戸を開いている。	利用者は地元出身者が多く、地域で開催している「わいわいカフェ“かこまち”」などの地域行事への参加など、地域住民との交流ができるよう支援している。馴染みの美容院に出かける利用者もいる。家族などが来訪しやすいよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのバックグラウンドや性格などをスタッフは把握し、必要によっては入居者様の間に入る等、孤立する様な状態にならない様、日々支援している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入居や入院、死去等で当施設を退居した後も面会や告別式等に伺っている事で、極力ご本人やご家族との関係性を断ち切らない様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や行動等を常に観察しながら希望や意向の把握に努めており、それを申し送りや毎月行っているカンファレンスを通して、意向に添った支援が出来る様、努めている。	日常生活の中での会話や行動から意向を把握し、心穏やかな生活ができるよう支援している。家族との連携により、生活歴などの情報を共有したり、利用者の「家に帰りたい」などの要望には、外出や外泊で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族・過去のサービス事業者等からバックグラウンドアセスメントを行っており、それを踏まえた形でサービスの提供を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に行うバックグラウンドアセスメントや日常の会話・行動を通して、「その時に」必要とされる助言や技術支援等、一人ひとりの状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の日々の会話や残存能力の状態・要望等の把握・ご家族からの意見や要望を基にモニタリング及びカンファレンスを行っており、不安無く生活を送る事が出来る様、支援計画を作成している。	定期的カンファレンスを行い、利用者の状態の変化などについて職員から意見を聞いている。家族の要望をできるだけ介護計画に反映するよう取り組んでいる。家族からの要望で口腔ケアを介護計画に取り入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録と併せ、サービス計画確認表及び連絡帳の記入や口頭によるスタッフ間の連絡体制にて情報を共有した上で支援を実施しており、支援計画にも修正へ活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の入居者様やご家族の希望・要望に応じて買物の支援や病院への受診等、その時々ニーズに合わせて柔軟な支援を行う様心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の各種行事・地域の催事等への参加や、ご家族・これまでの馴染みのある方等の交流を続けて頂く等、社会資源を活動しながら「その方」を支えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの入居前のかかりつけ医への受診を中心としながらも、希望時には主治医を施設協力医である松島海岸診療所の往診に切り替える等、柔軟な対応を行い、適切に医療サービスが受けられる様に支援している。	定期的なかかりつけ医の通院は職員が送迎、同行し、その他、専門医などの通院は家族が付き添っている。往診医をかかりつけ医として健康管理を行っている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診や往診を通して、「その方」の状態を書面と口頭でお互い報告・相談を行っており、医師・看護師からの指示若しくはアドバイスの元に適切な医療・看護サービスを受けられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は介護サマリーを送付すると共に入院期間中は複数回面会に伺い、病状を確認している。その間は医師・看護師・医療ソーシャルワーカー等、医療関係者との連絡体制を密に取っており、病状の把握に努めている。退院時には看護サマリーの送付等により、医療関係者と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書にて、施設としてできる事を説明している。これまでに看取りの実績は無いが、ご本人・ご家族の意向を尊重し、その方らしい終末期を迎えることができる様、事業所並びにその方に関わる全ての関係者が連携して支援できる様にしている。	看取りの実績はないが、協力医療機関との連携など、看取りについて検討中である。看護師の採用も検討している。家族室があり看取りの場合には活用できる。	家族の要望もあり、職員も看取りについての必要性を考えていることから、看取り体制を整えることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会議の際に緊急時対応マニュアルの読み合わせを定期的に行っている。又、松島消防署と連携し心肺蘇生法やAEDの取り扱い方法について指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月災害における避難訓練を実施しており、避難方法や避難場所の確認・模擬避難訓練を繰り返し行う事で全スタッフが迅速に対応出来る様に取り組んでいる。又、近隣住民の協力者の方には緊急連絡網に電話番号を記載させて頂き、災害時の応援を依頼している。	東日本大震災の津波の浸水地域でもあることから、定期的に津波の避難訓練を行っている。火災時の避難訓練は年2回行っている。直近では9月の運営推進会議時に合わせて行った。参加者からアドバイスがあり改善に向けて検討している。備蓄は3日分で、毎年入れ替えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりのバックグラウンドや人格を尊重する様に心掛けている。排泄や入浴時等は特にプライバシーに配慮した支援を行っている。	利用者を尊敬し支援している。入室時には確認するなど、特に注意を払っている。呼び名についても、本人の意向を確認している。毎月の「コスモス松島通信」の写真は確認してから掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ側からの画一的な支援を行わず、質問形式等を通して入居者様側から自己決定出来る様に支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの望まれる、自分なりのペースでお過ごし頂ける様にしている。裁縫したい方や料理をしたい方、計算や漢字の勉強をしたい方、音楽鑑賞をしたい方等、その時々に行いたい事を聞き取り、極力希望に添った過ごし方が出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際は極力入居者様ご自身で着たい衣類を選択して頂く等、自己選択出来る様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が作成している献立表を元にスタッフが基本的に調理を行っているも、能力や役割に応じて野菜の皮むきや盛り付け・食器拭き等を入居者様と一緒にやっている。	管理栄養士が確認した献立により、食事が提供されている。各ユニットでは食事の準備や片づけなど利用者と職員が一緒に行っている。味付けについて、利用者の率直な意見が出され改善している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表を元に食事を提供している。入居者様一人ひとりの咀嚼や嚥下状態・その時の健康状態をスタッフは把握した上で食事形態を選択し提供している。水分の不足についてはゼリーの提供やジュース等嗜好物の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの能力に応じて見守り・支援により口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の有する能力を把握し、可能な限り自立に向けた排泄を検討すると共に、排泄パターンや習慣を把握し、ご本人様に合わせた対応を行っている。	トイレでの排泄を目指しており、利用者が混乱しないよう居室から近い同じ場所を使うよう誘導している。夜中に限り、持ち込みのポータブルトイレで対応している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や適度な運動を行う事により便秘予防を心掛けている。必要時は主治医の処方により整腸剤・緩下剤の服用をされている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を作成し、定期的な入浴の機会を設けているが、予定日以外でも入浴の希望があった際は出来るだけ希望に添える様対応している。入浴の辞退が強い方についてはシャワー浴や清拭等、入浴にこだわらない形で清潔にお過ごし頂ける様、お手伝いしている。	週2回午前や午後の希望を確認し、入浴している。気乗りしない場合は、日を改めたりシャワーなどで対応している。脱衣所の温度はヒートショックなどに配慮し、高めに設定している。希望があれば同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個々の心身状態を把握し、希望時や必要時には適度に休息時間を設け、生活リズムを整える様に努めている。又、夜間休まれる際は居室の湿温度に気を配ると共に、寝具の調整等を行い、いつも安眠できる様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋を元に服薬表を作成しており、服薬目的や薬の副作用等、スタッフへ周知している。また誤薬の防止の為、勤務の異なる4名のスタッフで4重に渡ってチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドアセスメントやその方の能力を元に、その方が好む作業(調理補助・洗濯物たたみ等)を無理のない程度に行って頂き、張りのある生活を送って頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉狩りドライブ等、季節に合わせた形で外出する機会を設けている。また、天気の良い日に散歩等で近所の海を見に行ったりしてる。	車いすでも利用しやすい回転ずしやパノラマラインの紅葉ドライブ、高城川の幡谷の桜並木が季節ごとの楽しみなコースになっている。日常的には松島湾の海岸が散歩コースになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金に於いては金銭トラブル回避の観点から施設側で一元管理をしているが、買い物等により使用を希望される際は、極力使用出来る様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話や手紙のやり取りが出来る様体制を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には花等四季に応じた張り紙を、浴室では菖蒲湯や柚子湯等、季節に応じたお湯を楽しんで頂く等、楽しみのある空間作りを行っている。また、共用空間(リビング・廊下)は一日に3回清掃を行っており、いつも清潔な空間で過ごして頂ける様にしている。	中央の玄関を挟んで左右対称の平屋造りで左の東側が「ちどり」ユニット・西側が「かもめ」ユニットである。リビングは南に位置し居室はリビングを囲み、外の景色が見られる配置である。キッチンを挟むように畳敷きのスペースがあり多目的に使われている。掃除が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室やリビングの他に小上がりを設置しており、様々な所で好きな様に過ごせるスペースを設置して活用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた物や愛着のある物・ご家族の写真等を持ち込んで頂き、一人ひとりが心地よく過ごす事の出来る空間作りを行っている。	居室は開放感がある。クローゼットとベッドは備え付けであり、整理タンスなどの小物入れや椅子は各自の馴染みのものを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	運動機能的な面も含め、トイレは出来るだけその方が慣れている場所を使用して頂く等、環境の変化に戸惑う事の無い様に配慮しながら支援を行っている。またトイレには場所が分かり易い様、看板を掲げている。		